

TC 通信

№33 2018年9月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。(旧 YA 通信)
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本からピックアップ。

New!!



『雲と鉛筆』 吉田 篤弘/著 筑摩書房 913/チク/18

鉛筆工場で働く主人公“ぼく”の部屋は、百八十段の石階段を上った先の屋根裏です。

その部屋でぼくは、濃い目のお茶を飲みながら、大好きな本を読み、いろいろなことを考え、鉛筆で手紙や絵をかきます。

ゆったり言葉をかみしめながら読んでみてください。鉛筆で描いた雲のようなふわふわ感、知らない街で小さな素敵に出会うような不思議な感覚が味わえると思います。

ちくまプリマー新書の記念すべき300冊目『雲と鉛筆』の、あとがきもぜひ読んでください。この本がますます好きになります！

ちくまプリマー新書は若い読者に伝えたいことを小さな本にしています。一冊、一冊、表紙が違います。他のちくまプリマー新書も読んでくださいネ。

名作 たからばこ



『おとなになって読むアンデルセン』

アンデルセン/著 須田 諭一/編

メトロポリタンプレス 949.7/オ/14 4階一般



「人魚姫」「みにくいアヒルの子」「マッチ売りの少女」…皆さんも一度は読んだことがあるのではないのでしょうか？

「アンデルセン童話」はH.C.アンデルセンによる創作童話です。アンデルセンはデンマークの代表的な童話作家で、彼の名を冠した「国際アンデルセン賞」という児童文学の賞もあります。今年の4月には、絵本作家の角野栄子さんが日本人3人目となる国際アンデルセン賞作家賞の受賞を果たしました。

そんなアンデルセン童話のうち、18編のあらすじと解説を掲載しています。アンデルセンがどんな気持ちで童話を書いたのか、それぞれのお話にはどんな意味が込められているのか…解説を見てからもう一度お話を読めば、子どもの頃とは違った発見があるかもしれません。

テーマ
読書の秋

記録的な暑さもやわらぎ、過ごしやすい日が増えてきましたね。
涼しくなった今が読書のチャンスです！
「読書の秋」にぴったりな、読みごたえのある本たちをご紹介します。



『オクサ・ポロック1』(全6巻)

アンヌ=プリショタ、サンドリーヌ=ヴォルフ/著 児玉 しおり/訳

西村書店 95/ニシ/12-1 **3階児童**

忍者に憧れ空手を習う思春期の女子中学生オクサは、ロンドンからパリに引越します。不安な転校生活は悲惨な一日ではじまります。不思議な超能力と運命にとまどいながら、家族や仲間とともに敵と戦い試練を乗り越える、ネオファンタジーです。

登場する魔法生物たちもキュートでユーモラス、親しみが持てます。

続編に起きる天災や政変など、現実でありそうで少し不安に…

全6巻と長編ですが、ファンタジー好きなら秋の夜長にあっさり読破出来そう！

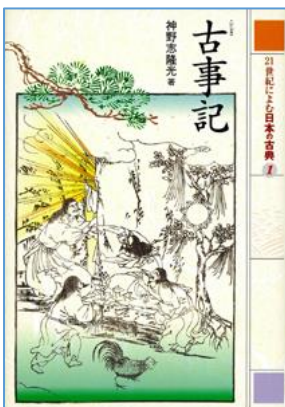
『はてしない物語』 ミハエル=エンデ/作 上田 真而子・佐藤 真理子/訳

岩波書店 94/エ/S **閉架児童**

デブで勉強も苦手、得意なことは読書と空想にふけること…そんな少年バスチアンは、いじめっ子たちから逃げるため、古本屋へ飛び込みます。そこで見つけた「はてしない物語」という本を、古本屋からこっそり持ち出して読み始めたバスチアン。

その本は、ファンタージェンという国を消滅の危機から救うため、大いなる探索の旅に出るアトレユのお話。読み進めていくと、驚くことに、ファンタージェンの救い手としてバスチアンの名前が出てきて…

ジャンルは児童文学ですが、今こそ読んで欲しいと思います。文庫版も出ていますが、ぜひハードカバーを読んでみてください。本の装丁にも注目！



『21世紀によむ日本の古典1 古事記』

神野志 隆光/著 ポプラ社 918/ホフ/01-1

皆さんの中には、“御朱印帳めぐり”でいろいろな神社を訪れる人も多いかもしれません。

『古事記』は世界に誇る神話です。神様の住まう「神社」そして個性的な神々の「物語」、そこから色々なことが読み取れます。はるか昔の日本人が頭の中に描いていたこの世の成り立ちと人間のあり方についての見方を知ることができます。

ミステリアスともいえる神話世界。『古事記』を読むと皆さんの知っている神社が身近に感じられるかもしれませんね。

『とりかえばや物語 男装の美少女と、姫君になった美少年』

越水 利江子/著 十々夜/絵 岩崎書店 913/イフ/16 **3階児童**

本のタイトルの「とりかえばや」という古語は、「取り替えてほしいなあ」という意味です。

主人公は権大納言家の若君と姫君。2人はとても美しく、周りが間違えてしまうぐらい顔が似ていますが、実は、若君は男の子みたいに凛々しい姉君で、姫君はおしとやかで内向的な弟君なんです。この姉弟は実際の性別を隠したまま、宮中デビューをしてしまい、男性として働いているのに妊娠しちゃったり、まさかの4角関係になったりと、「これって一体どうなっちゃうの!？」とハラハラさせられます。

2人は自分らしく生きることを選ぶのか、それとも……

いつの時代も自分の思うように生きるって大変なんだなって痛感します。それにしても、こんな物語が1000年も前に書かれていたなんて驚きですよ！

古典文学の奥深さ、面白さに気付かせてくれる物語です。



ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



『銀河英雄伝説 1』(全 10 巻)

田中 芳樹/著 徳間書店 F/タナ/10-1 3階一般

私たちは偶然生まれた世界で、結構疑問なく暮らしている。でも…？
この物語は、二つの異なる政治体制、民主主義と独裁主義の思想のもと、
銀河を背景に戦いを繰りひろげていく。そこに登場する実に魅力的な二人の
英雄と、彼らをとるまく人々の行動や言葉が、自分がどんな世界に属したい
のかを考えさせてくれるはず。「民主主義」のバイブルのような本だ。
さあ、あなたはどうか行動しますか。

図書館員 N の本棚

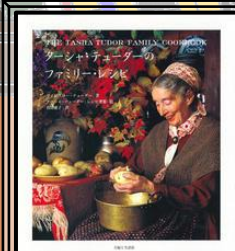
食欲の秋？なんでもおいしくいただけるこの季節“料理”に関する本を集めてみました。
科学的アプローチで料理をとらえた本、写真や絵を見ているだけで楽しくなる本、また外国
の方たちに英語で紹介することによって和食そして作法などをあらためて理解できる本、
あるいは「フード理論」で読み解き、まんががおもしろくなる本等々、ただの料理のガイド
ブックではなくいろいろな角度から“料理”をとらえた本をご紹介します。



『英語でガイド！外国人が
いちばん知りたい和食のお作法』
上田 敏子/著 Jリサーチ出版
596.8/エ/18 3階一般



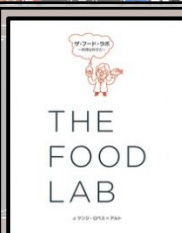
『まんがキッチンおかわり』
福田 里香/著
太田出版
596.6/マ/14 3階一般



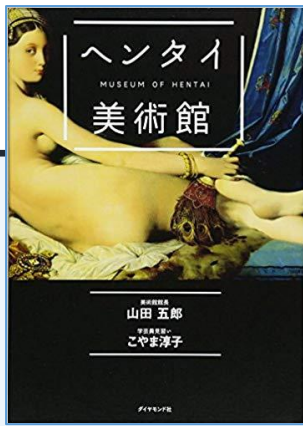
『ターシャ・テューダーのファミリーレシピ』
ウィンズロー=テューダー/著
ターシャ=テューダー/レシピ考案・絵
食野 雅子/訳
主婦と生活社 596/タ/17 3階一般



『村上祥子の
英語で教える日本料理』
村上 祥子/著
ジャパンプック
596.21/ム/16 3階一般



『サ・フード・ラボ』
J. ケンジ・ロベス=アルト/著・写真
上川 典子/訳
岩崎書店 596/サ/17



TC担当イチオシ!

『ヘンタイ美術館』

山田 五郎、こやま 淳子/著

ダイヤモンド社 723/へ/15

4階一般

どんな本?

本のタイトルはインパクトがありすぎですが、そこに騙されてはいけません。とても面白い、西洋美術史の初心者向けの本です。

ここがオススメ!

解説しているのは、現在、放送中の「出沒!アド街ック天国」に出演している山田五郎さんですが、適度にポイントを押さえながら、独自の偏見と妄想で、ルネサンスから印象派の巨匠を「ヘンタイ」=「一般の人とは違う強いこだわり」という、ちょっと珍しい視点から解説しています。

ちなみに、山田さんによると、ダヴィンチは一発屋、ドラクロワは19世紀の島耕作、モネは印象派のビッグダディということなので、そのネーミングセンスに思わず笑ってしまいますが、内容を読むと「なるほどな〜」って納得してしまいます。

美術史の入門書としても読めますが、エンタテイメントとしても楽しめるので、ぜひ一読してください!

お知らせ!

YA (ヤングアダルト) コーナーは、2018年4月から「ティーンズコーナー」に変わりました!

★YAコーナーは、「ティーンズコーナー」に名前を変えてリニューアル!引き続き、中高生のみなさんが楽しめるようがんばります!

★場所も拡大しました!「TC通信」のブラックボードが置いてあるテーブルの、左側をのぞいてみてください!

「〇〇について調べたい!」「△△の本はどこ?」など、本に関する相談や探し物は職員に気軽に聞いてみてね。



発行:春日井市図書館

春日井市鳥居松町5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。